

☆年間第22主日(8月28日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (シラ書 3 章 17-18, 20, 28-29 節)

子よ、何事をなすにも柔和であれ。
そうすれば、施しをする人にもまして愛される。
偉くなればなるほど、自らへりくだれ。
そうすれば、主は喜んで受け入れてくださる。
主の威光は壮大。
主はへりくだる人によってあがめられる。
高慢な者が被る災難は、手の施しようがない。
彼の中には悪が深く根を下ろしている。
賢者の心は、格言を思い巡らし、
知者の耳は、格言を熱心に聴く。

第二朗読 (ヘブライ人への手紙 12 章 18-19, 22-24 節)

皆さん、あなたがたは手で触れることができるものや、燃える火、黒雲、暗闇、暴風、ラツパの音、更に、聞いた人々がこれ以上語ってもらいたくないと願ったような言葉の声に、近づいたのではありません。しかし、あなたがたが近づいたのは、シオンの山、生ける神の都、天のエルサレム、無数の天使たちの祝いの集まり、天に登録されている長子たちの集会、すべての人の審判者である神、完全なものとされた正しい人たちの霊、新しい契約の仲介者イエスなのです。

福音朗読 (ルカ 14 章 1, 7-14 節)

安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された。「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも

身分の高い人が招かれており、あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかい、て末席に着くことになる。招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」また、イエスは招いてくれた人にも言われた。「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかも知れないからである。宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

おはようございます。まだまだ暑い日が続きますね。コロナの感染状況も高止まりしていて、身近なところに感染が広がっている状況ですね。夏のバカンスも終わりに近づきました。あっという間ですね。そんな中にも子どもたちはたくましく育っていきます。私たち大人も負けずに、神さまが望まれる世界になるように働き、祈りましょう。今日のミサ朗読のテーマは、「謙遜」、「へりくだり」ということのようにです。どんなことが語られているのか見てみましょう。

第一朗読 (シラ書 3 章 17-18, 20, 28-29 節)

このシラ書は「集会の書」ともいわれています。この書には格言の形から主からの言葉、知恵が述べられ、人々の生活を導く教えが述べられています。今日の部分では、「柔和」、「へりくだり」が素晴らしい知恵として述べられ、そのような人は主から喜んで受け入れられると述べています。日本にも「実るほど頭を垂れる稲穂かな」ということわざがありますが、今の季節ではひまわりが大きくなって大輪の花を咲かせ、種ができるに従ってその重さの

ために頭を垂れていきます。もちろん稲の穂もそうです。心が神によって充実すると自然にへりくだり、謙遜になるものなんですね。それにしてもひまわりの花は本当に重そうです。

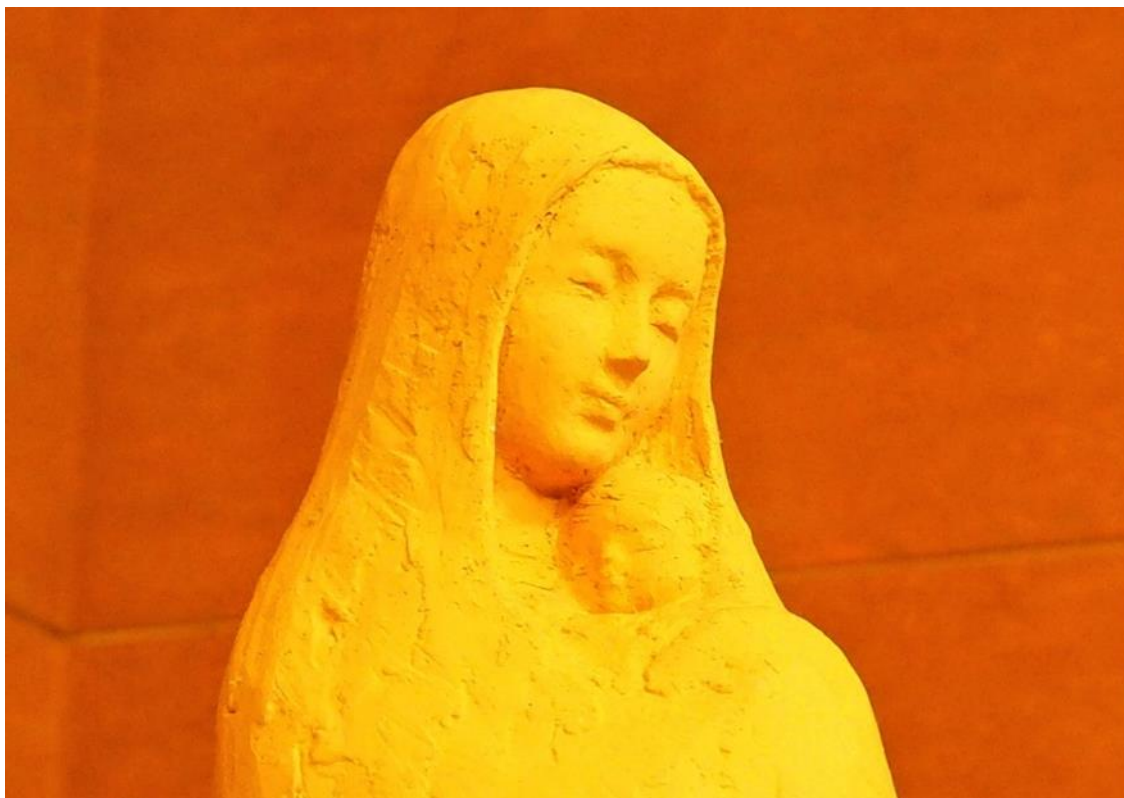
第二朗読（ヘブライ人への手紙 12章 18-19, 22-24節）

ここ数週間はヘブライ書が読まれています。ヘブライ書の著者はこの手紙をユダヤ教から回心してキリスト教に入った人々に対して書いているようです。今日読まれた箇所は旧約時代にモーセが遭遇した神との体験のような恐ろしい神ではなく、「あなたたちが近づいたのは・・・」と述べることによって、イエス・キリストによってもたらされた素晴らしい救いの道なのだと述べているのです。だからまた元の律法に縛られた生活ではなく、キリストが生きた愛の道を歩むように励ましているのです。今はもう恐れではなく、愛によって歩む時なのです。

福音朗読（ルカ 14章 1, 7-14節）

イエスはある食事の招待を受けてその時の人々の様子から、「へりくだり」の大切さを語っています。招待した人はファリサイ派の議員だったと書かれています。案の定イエスの一挙手一投足をまじまじと見つめ粗を探していたのですが、イエスもまた招待された人々が食事の席に着く様子を見ていました。そこでの話です。上席に座って恥をかくのではなく、下座に座って招いた人に「もっと上座に座ってください」と面目を施すようにしなさいと、進言しています。招待を受けたときの作法のようなものです。またイエスは招待する側の人にも勧めを与えています。返礼ができるような裕福な人ではなく、返礼ができないような貧しい人を招待しなさいと。復活するその時に神からその報いが与えられるからと。昔も今も、人々は他人からよく思われようと努力をしています。人の思いは気まぐれで一瞬で変わるものです。何事も変わらない方に架けることが大事なのです。「誰でも高ぶるものは低くされ、へりくだるものは高められる」という言葉は、マリアがエリザベトを訪問した際に歌った賛歌によく似ています。マリアこそがこの「謙遜」、

「へりくだり」を最もよく生き通し模範となった方であるのです。



マリアこそ謙遜の模範（那須のベタニア修道会）

P.S.

教会委員会ではミサの時間の変更を来週日曜日(9月4日)から9時のミサだけにしますと決めました。もちろんコロナ感染症の予防に努力しながら行います。どうぞお間違いの無いようにおいでください。この対応は足立教会のような小さな教会共同体が二つのミサに分かれてしまうと、お互いのコミュニケーションが取りづらくなり、会議や集会が開きづらくなるのを防ぐためです。ご協力お願いします。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光